

II Samuel 7:21-25, 8:1-15, 9:1-13

(IIサムエル記7:21)『あなたは、ご自分の約束のために、あなたのみこころのままに、この大いなることのすべてを行い、このしもべにそれを知らせてくださいました。』

神さまがこれらすべてのことをダビデのためにしてくださったのは、ダビデが良い子だったからでしょうか？これから見ますが、彼は良い子ではありませんでした。神さまが私たちを救ってくださったのも、私たちが良い子だったからではありません。神さまが私たちを救ってくださったのは、神さまのすばらしい無限の恵みのゆえです。神さまはとても多くの特別なことを私たちのためにしてくださいますが、それは私たちが良い人間だからではなく、“神さまが”良い方だからなのです。神さまはすばらしい方です。私たちはそうではありません。神さまの御名をほめたたえるべきです。ダビデは、神さまが自分に語ってくださったことによって、圧倒されています。彼が美しい詩篇の数々を書くことができたのも不思議ではありません。

(IIサムエル記7:22)『それゆえ、神、主よ。あなたは偉い方です。私たちの耳に入るすべてについて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はありません。』

この節は、読むだけでも私たちのためになると思いませんか？このような神さまを持つことができるとは、何という特権でしょう！

(IIサムエル記7:25)『どうか、神、【主】よ。あなたが、このしもべとその家について約束されたことを、とこしえまでも守り、あなたの約束どおりに行ってください。』

これがダビデの救いとなったということをご存知でしたか？ IIサムエル記23:5に耳を傾けてください。

(IIサムエル記23:5)「まことにわが家は、このように神とともにある。とこしえの契約が私に立てられているからだ。このすべては備えられ、また守られる。まことに神は、私の救いと願いとを、すべて、育て上げてくださる。」

ダビデは、神さまの約束にたよりました。

神さまはあなたのためにも約束をしてくださいました。その約束はヨハネの福音書3:16に書かれています。

(ヨハネ3:16)「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

あなたは神さまを信じますか？ダビデは神さまを信じました。また私たちは、アブラハムが神さまを信じたことも見てきました。モーセも神さまを信じました。ヨシュアも神さまを信じました。そして神さまは“あなたにも”神さまを信じて欲しいと願っておられます。あなたがどういう名前であっても、神さまは今日、こう言っておられます。

「わたしを信じなさい。あなたがキリストを自分の救い主として信じるなら、私はあなたを救おう。」

これが神さまが私たちと結んでくださった契約です。

8章～10章

テーマ:ダビデ、自分の王国を統合する。

ダビデはエルサレムを首都として建て、神さまの契約の箱を持ってきました。今彼は、自分の王国を統合し、たったひとり生き残ったヨナタンの息子、メフィボシエテを助けます。同時に彼は昔からのイスラエルの敵に対して勝利し、イスラエルの境界線を広げます。

ダビデ、自分の王国を統合する

(IIサムエル記8:1)「その後、ダビデはペリシテ人を打って、これを屈服させた。ダビデはメテグ・ハアマをペリシテ人の手から奪った。」

「その後」とは、神さまがダビデとご自分の契約を結ばれたときのあとを指しています。今、王国の中でダビデの地位は完全に安定し、また、ペリシテ人に対して彼が大きな勝利を得ました。彼らはイスラエルの絶え間ない、根深い敵でした。ダビデは彼らをイスラエルの地から追い出ただけでなく、彼らの境界線の向こうまで彼らを追い払いました。ペリシテ人たちは、この地の大きな部分、特に南部に住み着いていました。

ダビデがツォバの王を征服したときのことが次のように語られています。

(Ⅱサムエル記8:4)「ダビデは、彼から騎兵千七百、歩兵二万を取った。ダビデは、その戦車全部の馬の足の筋を切った。ただし、戦車の馬百頭を残した。」

ツォバの王ハダデエゼルは、ユーフラテス川までも広がる王国を持っていました。ダビデは彼から千の戦車を取ったと言われています。(訳注:英語の本文は David took from him a thousand chariots, and seven hundred horsemen and twenty thousand footmen、すなわち、「ダビデは彼から千の戦車と七百の騎兵、そして二万の歩兵を取った」と書かれています。)ダビデは少しを残してほとんどの馬の足の筋を切りました。申命記で、神さまは王たちに馬や妻たちを増やしてはならないという定めを作られました。ダビデは妻たちは増やしましたが、(ソロモンは馬も妻たちも両方増やしました)見たところ、馬に関しての主の指示には従おうとしています。

この章には、多くの詳細が書かれています。もし、新しい地域や新しい土地を探検するのがお好きなら、この章を学び、ダビデが動き回ったいろいろな地域を地図でたどることを楽しめることでしょう。ダビデはイスラエルの地境を広げました。彼は、南はペリシテ人たちの地へ、東はモアブ人たちの地へと国境を拡張しました。ダビデはシリヤとエドムに守備隊を設置しました。そのようなわけで、シリヤ、モアブ、アモン、ペリシテ人たち、アマレク人たちのすべてがダビデに従属し、明らかに貢物を納めたようです。

(Ⅱサムエル記8:13-14)「ダビデが塩の谷でエドム人一万八千を打ち殺して帰って来たとき、彼は名をあげた。彼はエドムに守備隊を、すなわち、エドム全土に守備隊を置いた。こうして、エドムの全部がダビデのしもべとなった。このように【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。」

南西、南東、そして今、北にもダビデはイスラエルの地境を押し広げ、王国を拡大することができました。西の地境は地中海ですから、西に国が広がった、と言っても仕方ありません。

(Ⅱサムエル記8:15)「ダビデはイスラエルの全部を治め、その民のすべての者に正しいさばきを行った。」ダビデは、イスラエルの全部を治め、その民のすべての者に正しいさばきを行ったことで注目されました。王国はものすごく拡大しました。ダビデは王国にその全盛期をもたらし、イスラエルを当時のほかの王国とやり取りをする、世界的な権力に作り上げたのです。

ダビデ、メフィボシェテを助ける

この章には、聖書の中で最も美しい物語のひとつが記録されています。この物語は、ダビデが本当に偉大な人物であったことを明らかにします。私たちは普通、ダビデというと、彼の犯した罪との関連で考えます。おそらくそれは自然なことでしょう。

私の前に大きな白いスクリーンがあるとしましょう。そのスクリーンに、小さな黒いしみがついています。インクがそのスクリーンについたのです。それを見ていて、そのスクリーンのもっとも印象的なことは何でしょう？ 広大な白い部分があります。でも、その小さな黒いしみが目立つのです。または、私がテキサスの西部でしていたように、ハイウェイを車で走っているとしましょう。牧草地に2,000頭ほどの羊がいます。1頭だけを除いて、みんな白い羊です。どの羊が目だって見えますか？ ダビデの生涯も同じです。私たちはいつでも彼の大きな罪に注意を集中します。そして、彼の罪は確かに大きな罪でした。問題は、私たちがダビデの気高い生涯と英雄的な行為に、ほとんど注意を向けないことです。誰かが次のように言いました。「最悪の人々の中にも、多くのいいところがある。最善の人々の中にも、多くの悪いところがある。だから、私たちのほとんどはほかの人たちのことを話さないことが適当である。」

私たちは、ダビデに対する見解を評価し直さなければならないのではないのでしょうか。巨人を倒した若い羊飼いの少年時代から、年老いて経験に長け、

「主は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません」

と書くことができるようになった時代まで、ダビデの長い生涯の中には、とても多くの明るい部分があります。この章では、ダビデの慈悲深い性格を見て行きます。

9章には、メフィボシェテの物語が記録されています。彼はヨナタンの息子で、サウルの孫に当たります。この時点で、サウルの背景について少し思い出すことが重要です。彼はダビデに対して無慈悲で苦々しい敵でした。サウルの死にあたって、ダビデは自分の軍隊を配置し始めました。この当時の東方の習慣によれば、新しい王は自分の前の王朝の王座への競争者をすべて殺してしまうことが自然でした。王座を要求する者は誰でも、死刑に処されました。そうやって、新しい王を脅威から守ったのです。当時のおきてによれば、ダビデはサウルの子孫の誰を殺しても、正当化されたのです。サウルとヨナタンが、同じ戦いで殺されたとき、ダビデが彼を見つけて殺すといけないと、ヨナタンの小さな息子は隠されたのでした。この少年の名前はメフィボシェテでした。ダビデは、この少年を殺して最後の危険の痕跡を取り除けば、もっと確かに自分の王座を建てることができたのです。

(Ⅱサムエル記9:1-4)「ダビデが言った、『サウルの家のもので、まだ生き残っている者はいないか。私はヨナタンのために、その者に恵みを施したい。』サウルの家にはツィバという名のしもべがいた。彼がダビデのところに召し出されたとき、王は彼に尋ねた、『あなたがツィバか。』すると彼は答えた、『はい、このしもべです。』王は言った、『サウルの家のもので、まだ、だれかいないのか。私はその者に神の恵みを施したい。』ツィバは王に言った、『まだ、ヨナタンの子で足の不自由な方がおられます。』王は彼に言った、『彼は、どこにいるのか。』ツィバは王に言った、『今、ロ・デバルのアミエルの子マキルの家におられます。』

サウルのしもべツィバは、裏切ってメフィボシェテの隠れ家を明かしました。ダビデは簡単に彼を殺すこともできたのです。

(Ⅱサムエル記9:5-6)「そこでダビデ王は人をやり、ロ・デバルのアミエルの子マキルの家から彼を連れて来させた。サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテは、ダビデのところに来て、ひれ伏して礼をした。ダビデは言った、『メフィボシェテか。』彼は答えた、『はい、このしもべです。』

メフィボシェテがダビデの前に連れてこられたとき、彼はダビデの前にひれ伏しました。殺されると思っていたのです。その代わりに、ダビデは彼に親切に語り、彼を名指しで呼びます。

(Ⅱサムエル記9:7)「ダビデは言った、『恐れることはない。私は、あなたの父ヨナタンのために、あなたに恵みを施したい。あなたの祖父サウルの地所を全部あなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で食事をしてよい。』

ダビデはすぐに彼を落ち着かせ、彼を召し出した理由を説明します。ダビデはメフィボシェテの相続地を彼に返します。そして彼に王の食卓での定まった場所を与えます。ダビデは彼を自分の息子のひとりとして敬意を表しました。

(Ⅱサムエル記9:8)「彼は礼をして言った、『このしもべが何者だというので、あなたは、この死んだ犬のような私を顧みてくださるのですか。』

このすべてに対するメフィボシェテの反応を見てください。もし、他の王が王位についていたら、彼は殺されていたのです。全く別の物語になっていたことでしょう。そのことを真に理解したうえで、メフィボシェテは自分を「死んだ犬」と言います。でも、ダビデは彼をそのようには呼びません。彼は言います。

「あなたは死んだ犬などではない。あなたはヨナタンの息子、メフィボシェテだ。私はあなたに恵みを施したい。」

(Ⅱサムエル記9:9-10)「そこで王はサウルのしもべツィバを呼び寄せて言った、『サウルと、その一家の所有になっていた物をみな、私はあなたの主人の子に与えた。あなたも、あなたの息子たちも、あなたの召使たちも、彼のために地を耕して、作物を得たなら、それはあなたの主人の子のパン、また食物となる。』

あなたの主人の子メフィボシェテは、私の食卓で、いつも食事をすることになる。』ツィバには十五人の息子と二十人の召使いがあつた。」

これは大家族です！このサウルの所有地は、メフィボシェテに与えられました。その所有地は正当に彼に属しており、ダビデはメフィボシェテがその土地を得るようにとりかはります。

(Ⅱサムエル記9:11-13)「ツィバは王に言った。『王さま。あなたが、このしもべに申しつけられたとおりに、このしもべはいたします。』こうして、メフィボシェテは王の息子たちのひとりのように、王の食卓で食事することになった。メフィボシェテにはミカという名の小さな子どもがいた。ツィバの家に住む者はみな、メフィボシェテのしもべとなった。メフィボシェテはエルサレムに住み、いつも王の食卓で食事をした。彼は両足が共になえていた。」

ダビデがメフィボシェテのためにしたことはすばらしいことでした。でも、他にも見逃していただきたくない偉大な霊的真理をとまなう印象的なレッスンがあるのです。

1. “神さまの子どもも神さまの目には障害者である。”
ローマ人への手紙3:15-16にはこう書かれています。

(ローマ3:15-16)「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲慘がある。」

これは、神さまの病院からの人間という種族に関する報告書です。私たちの足が私たちを迷わせるのです。

(イザヤ53:6)「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」

そして、箴言の著者は言います。

(箴言16:25)「人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。」

私たちの足が私たちをトラブルに巻き込みます。聖書の中では、たましいと足の行く道がとても密接しているのはとても興味深いことです。

ダビデの食卓には、彼の生涯の間足のなえた若者がいたことを思い出しながら、詩篇56:13に耳を傾けてください。

(詩篇56:13)「あなたは、私のいのちを死から、まことに私の足を、つまずきから、救い出してくださいました。それは、私が、いのちの光のうちに、神の御前を歩むためでした。」

そして詩篇73:2では、ダビデはこう言っています。

(詩篇73:2)「しかし、私自身は、この足がたわみそうで、私の歩みは、すべるばかりだった。」

ダビデは不自由な足をもっていることがどういうことか、知っていました。詩篇116:8では彼はこう言います。

(詩篇116:8)「まことに、あなたは私のたましいを死から、私の目を涙から、私の足をつまずきから、救い出されました。」

私たちすべては、主の前に実際に障害をもっているのです。

現代哲学やヒューマニズムは、人間の別の姿を提示します。私は前に、ひとりのリベラル主義者が、キリストは人類のたましいの見事さを明らかにするために来られたのだ、と言うのを聞きました！神さまは言われます。

(エレミヤ17:9)「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」

心の中から、邪悪な考えが出て来ます。そしてそれは、悪いことのくずの山なのです。人間の本質からは、何の良いものも期待できません。パウロは次のように言うことができました。

(ローマ7:18)「私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。」

パウロは肉に何の信頼もしていませんでした。律法は罪の宣告です。ヨハネの福音書14:6にはこう書かれています。

(ヨハネ14:6)「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』」

私たちがその道を通っていくとき、主は私たちを受け入れてくださいます。

2. “ダビデはヨナタンのゆえに、メフィボシェテに親切の手を差し伸べた。”

これはこの驚くべきできごとの、もうひとつの面です。ご存知のように、ダビデはこの若者を知りませんでした。ダビデは、自分が愛したヨナタンのために、このことをしたのです。ダビデがこの若者を見たとき、彼は障害者を見たものではありません。ヨナタンを見たのです。彼はヨナタンと契約を結びました。無力な人物に差し伸べられた親切と、あわれみと、恵みは、もうひとりの別の人のためだったのです。

ヨナタンがダビデにとってどれほど大切だったかは見てきました。ヨナタンの死の知らせがダビデに届いたとき、ダビデは言いました。

(IIサムエル記1:25-26)「ああ、勇士たちは戦いのさなかに倒れた。ヨナタンはおまえの高き所で殺された。あなたのために私は悲しむ。私の兄弟ヨナタンよ。あなたは私を大いに喜ばせ、あなたの私への愛は、女の愛にもまさって、すばらしかった。」

さて、神さまは、あなたや私をもうひとりのお方、主イエス・キリストのために救われました。私たちが主イエス・キリストを救い主として受け入れるとき、私たちは「愛する方にあって」受け入れられるのだとエペソ人への手紙1:6に書かれています。(エペソ1:6参照)

(エペソ1:6)「それは、神がその愛する方にあって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。」

神さまがあなたや私をキリストにあって見られるとき、神さまは私たちを受け入れ、救ってくださるのです。

3. “ダビデはメフィボシェテのなえた足のことは何も言わなかった。”

ダビデがそのことについて一度でも触れたりほのめかしたりしたという記録は全くありません。彼は一度もメフィボシェテに

「からだの不自由で気の毒にね」

などとは言いませんでした。ダビデは彼を王子のように扱いました。彼は王の食卓に着き、彼の足は麻布で覆われました。神さまは、私たちの罪を忘れてくださいます。なぜなら、私たちの罪は主イエス・キリストの血によって消し去られたからです。それは、神さまが私たちを赦してくださる、“唯一の”道です。ヘブル人への手紙の著者は、次のように言っています。

(ヘブル10:17)「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い出すことはしない。」

4. “メフィボシェテは、自分のなえた足について、何も言わない。”

ダビデとメフィボシェテが食卓に着いたとき、何の話をしたと思われますか？彼らはほかの人のことを話しました。それが誰だか、ご存知ですか？ヨナタンです。ダビデはヨナタンを愛していました。メフィボシェテもヨナタンを愛していました。彼はメフィボシェテの父でした。ヨナタンが会話の主題だったのです。

あなたや私は何を話しましょうか？自分たちが罪の中に生きていたときのことを話すのに強烈な喜びを感じるクリスチャンたちがいます。私たちが一緒に話すときに、もうひとりのお方のことを話さないのはあまりにも残念です。私たちの会話の主題は、主イエス・キリストであるべきです。

5. “ほかの人たちも、メフィボシェテのなえた足について、何も言わなかった。”

王の食卓で食べた人たちは大ぜいいました。ある日、彼らはダビデがこの障害のある若者を食卓に連れてくるのを見ました。うわさ屋たちは「どうしてあんなったか聞いている？」などとは言いませんでした。その代わりに彼らは王に耳を傾けました。彼らはダビデがメフィボシェテを賞賛するのを聞きました。彼らには、つまらない話に浸っている暇はありませんでした。この若者に対する愛で彼らの心はひかれました。ご存知のように、愛は、

(コリント13:7-8)「すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることはありません。…」

私が知っている限り、ダビデはこの若者を歩かせてあげることではできませんでした。もし自分が神さまを喜ばせるように歩けないなら、主イエス・キリストに向いてください。キリストは、友人たちに屋根から吊りおろされた中風の人に言われました。

(マタイ9:2-6)「…『子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された』…『起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい』」

使徒パウロは促しました。

(エペソ4:1-2)「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」

もしあなたが歩みで失敗しているなら、キリストの助けに頼ってください。

キリストは今日、あなたの町のいたるところで招いておられます。主は言っておられます。

(マタイ11:28)「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

また言われます。

(ヨハネ7:37)「…『だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。』」

この章には、なんとすばらしい神さまの愛の姿が示されていることでしょう！